

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
2025年度 第4回 FD・SD委員会
議事次第

日 時：2026年2月9日（月）メール審議

回答期限：2026年2月13日（金）正午

委員校：甲南大学（委員長校）・神戸市看護大学（副委員長校）

芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、神戸大学、
神戸学院大学、神戸国際大学、神戸松蔭大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、
神戸親和大学、神戸常盤大学、神戸薬科大学、園田学園大学、宝塚医療大学、兵庫大学、
兵庫大学短期大学部、兵庫教育大学、兵庫県立大学、流通科学大学 計22校

I. 報告事項

1. 2026年度・2027年度の事業委員会の正副委員長校について (資料1)
標記に関し、理事会の審議・承認を経て、資料1のとおり決定したことをご報告。
2. 事業委員会の運営に関する申し合わせについて (資料2)
標記に関し、理事会の審議・承認を経て、資料2のとおり、委員長校及び副委員長校の任期及び
選考方法に関する経過措置を本文から削除し、附則として規定したことをご報告。

II. 審議事項

1. 2026年度 FD・SD委員会 事業計画・予算（案）について (資料3)
 - ①加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開
 - ②<FD・SD情報交換会、セミナー等の開催>大学教育等に関する講演会等の開催

標記に関し、森理事長から各事業委員会に、資料3-1のとおり依頼があった。

資料3-3（参考資料）の理事会からの改善提案をもとに作成した、資料3-2「2026年度事業計画・
予算【鑑】（案）」について審議。

III. 連絡・調整事項

1. 2025年度 FD・SD委員会開催予定と主な議題について
第5回委員会：2025年度 事業報告・決算（案）について
メール審議にて3/9（月）～3/13（金）の期間に実施予定

以上

<資料一覧>

【報告事項1】資料1：2026年度・2027年度の事業委員会の正副委員長校について

【報告事項1】資料2：事業委員会の運営に関する申し合わせ

【審議事項1】資料3-1：2026年度事業計画・予算（案）及び2025年度事業報告・決算（案）の
作成について（依頼）

【審議事項1】資料3-2：2026年度FD・SD連携委員会事業計画・予算【鑑】（案）

【審議事項1（参考）】資料3-3：2025年度 各事業委員会の事業計画における自己評価・改善提案について

2026年度・2027年度の事業委員会の正副委員長校について

2026年度に最終年度を迎える、ひょうご産官学連携協議会の中長期計画Ⅱ期を確実に完遂するとともに、2027年度からの5ヵ年の中長期計画Ⅲ期の計画、実行、推進に向け、下記の体制にて事業委員会の運営を行う。

No.	事業委員会	委員長校	副委員長校
1	国際交流委員会	兵庫県立大学	神戸市外国語大学
2	学生交流委員会	神戸常盤大学	関西学院大学
3	教育連携委員会	甲南大学	大手前大学
4	高大連携委員会	関西国際大学	神戸大学
			兵庫教育大学
5	キャリア委員会	神戸学院大学	関西福祉大学
			甲南女子大学
			神戸国際大学
6	FD・SD委員会	神戸親和大学	芸術文化観光専門職大学

※赤字は2026年度からの新規担当大学

事業委員会の運営に関する申し合わせ（抜粋）

3-2. 委員長校及び副委員長校の任期及び選考方法

- (1) 任期は2年とし、再任を妨げない。但し、委員長校については、再任が生じないように配慮する。
- (2) 国際交流委員会、学生交流委員会、教育連携委員会及び高大連携委員会の委員長校の選考は、選択制とし、キャリア委員会及びFD・SD委員会の委員長校の選考は輪番制とする。
- (3) 6事業委員会の副委員長校の選考は、選択制とする。
- (4) 任期満了に伴う改選は、コンソ事務局が、委員長校、副委員長校の意見を聴取し、企画運営委員会で協議ののち、理事会で決定する。

【選択制】

- ① 選択制は、適用される委員会の正副委員長校の履歴を考慮し、正副委員長校を選択することとする。
- ② 事業委員会の委員長校の任期期間に理事が交代した場合であっても任期満了まで、引き続き担当する。

【輪番制】

・ 輪番制は、事前に決定した理事校内の大学順にて、委員長校を担当する。ただし、理事会が認める場合、順序を変更できるものとする。

【留意事項】

- ① 選択制4事業委員会の正副委員長及び輪番制2事業委員会の委員長については、原則として、理事校が担当するものとする。ただし、理事会が認める場合、理事校以外の正会員が担当することができるものとする。
- ② 選択制と輪番制では、輪番制を優先するものとする。
- ③ 1大学が重複して正副委員長校を担当することがないように調整する。

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会の運営に関する申し合わせ

企画運営委員会

1. 目的

この申し合わせは、一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸（以下「コンソ」という。）定款第 38 条に基づき設置した事業委員会の運営について、必要な事項を定めるものとする。

2. 委員等

事業委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 正会員の教職員で、原則 2 名（教員 1 名、職員 1 名）。
- (2) 毎年度、第 1 回委員会開催までに委員をコンソ事務局に登録する。

3. 事業委員会の組織及び所管事項等

- (1) 事業委員会は、委員長校と副委員長校を置く。ただし、副委員長校は複数校置くことができる。
- (2) 委員長校は、副委員長校と連携し、事業計画の策定、事業委員会の招集、審議等、行う。
- (3) 副委員長校は、委員長校を補佐し、委員長校が不在の場合は、職務を代行する。

3-2. 委員長校及び副委員長校の任期及び選考方法

- (1) 任期は 2 年とし、再任を妨げない。但し、委員長校については、再任が生じないように配慮する。
- (2) 国際交流委員会、学生交流委員会、教育連携委員会及び高大連携委員会の委員長校の選考は、選択制とし、キャリア委員会及び FD・SD 委員会の委員長校の選考は輪番制とする。
- (3) 6 事業委員会の副委員長校の選考は、選択制とする。
- (4) 任期満了に伴う改選は、コンソ事務局が、委員長校、副委員長校の意見を聴取し、企画運営委員会で協議ののち、理事会で決定する。

【選択制】

- ① 選択制は、適用される委員会の正副委員長校の履歴を考慮し、正副委員長校を選択することとする。
- ② 事業委員会の委員長校の任期期間に理事が交代した場合であっても任期満了まで、引き続き担当する。

【輪番制】

・ 輪番制は、事前に決定した理事校内の大学順にて、委員長校を担当する。ただし、理事会が認める場合、順序を変更できるものとする。

【留意事項】

- ① 選択制 4 事業委員会の正副委員長及び輪番制 2 事業委員会の委員長については、原則と

して、理事校が担当するものとする。ただし、理事会が認める場合、理事校以外の正会員が担当することができるものとする。

②選択制と輪番制では、輪番制を優先するものとする。

③1大学が重複して正副委員長校を担当することがないように調整する。

4. 事業委員会の任務

(1) 事業委員会は、理事会において決定された事業方針に則り、事業委員会内で事業の具体的な計画・実施・報告（自己評価）を行い、情報を共有する。

5. 事業委員会の招集・議事

(1) 事業委員会は、委員長が必要と認めたとき、又はそれぞれの事業委員会を構成する正会員の半数以上からの請求があったときに委員長が招集する。

(2) 事業委員会の委員長は、事業委員会の承認を経て、「正会員当たり原則2名の委員」に拘らず、計3名以上の者若しくは委員以外の者を出席させることができる。

6. 成立要件（定足数）

(1) 事業委員会は、それぞれの事業委員会を構成する正会員の過半数の出席をもって成立とする。

(2) 委員が欠席し、代理者が出席した場合は、その委員は出席したものとみなす。

(3) 「委任状」の制度は用いない。

(4) 事業委員会は、対面、オンライン、書面又は電磁的記録による会議方式によって開催する。

7. 議決権及び議決数

(1) 正会員あたり各1個の議決権を有し、議事は出席した正会員の過半数をもって決する。なお可否同数のときは委員長の決するところとする。

8. プログラム担当校

(1) 事業委員会において、必要に応じ、プログラムを主に担当するプログラム担当校を置くことができる。

(2) プログラム担当校は、委員長校・副委員長校と相談のうえ、プログラムの計画、実施、報告（自己評価）を行う。

(3) 委員長校・副委員長校がプログラム担当校となることを妨げない。

9. 事業委員会事務局

(1) 事業委員会に関する事務は、コンソ事務局と事業委員会の事務局（委員長校・副委員長校）が連携して行う。

10. 改廃

この申し合わせの改廃は、企画運営委員会の議を経て、理事会で決定する。

附則

この申し合わせは、2019年4月1日から施行する。

附則

- (1) この申し合わせは、2022年4月1日から改正施行する。
- (2) 「3. 委員長校、副委員長校」の任期について、2022年度は、新たに任命された委員長校、副委員長校を含め1年とする。

附則

この申し合わせは、2023年4月1日から改正施行する。

附則

- (1) この申し合わせは、2026年4月1日から改正施行する。
- (2) 2023年4月1日から施行した「3-2. 委員長校及び副委員長校の任期及び選考方法」に規定した次の経過措置は、期間満了により削除した。
 - ① 委員長校及び副委員長校の選考方法については、2023年度より選択制及び輪番制を導入する。
 - ② 委員長校及び副委員長校の任期については、2023年度からの担当期間を原則として3年間（2023年度～2025年度）とする。
 - ③ 2026年度～2027年度の委員長校及び副委員長校については、過去の就任実績を鑑みて2025年度後期に検討するものとする。

以 上

2026年2月吉日

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会 委員長 各位

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 森 康俊

2026年度事業計画・予算（案）及び2025年度事業報告・決算（案）の作成について（依頼）

拝啓 寒冷の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、標記の件につきまして、下記のとおりご提出いただきますよう、よろしくお願いたします。

なお、2026年度事業計画の作成にあたっては、2025年度の各事業委員会の自己評価をもとに企画運営委員会及び理事会にて作成した改善提案の内容を踏まえてご検討いただきますようお願いいたします。ご不明な点がございましたら、事務局までお問い合わせください。

敬具

記

1. 2026年度事業計画・予算（案）及び2025年度事業報告・決算（案）の作成・提出

(1) 2026年度事業計画・予算【鑑】（案）

提出期限：2026年2月13日（金）正午

(2) 2026年度事業計画・予算【詳細】（案）

提出期限：2026年5月7日（木）正午

※第7回理事会(1/30)において来年度の各委員会事業に対する予算が承認されました。

委員会事業予算（総額）：600万

(3) 2025年度事業報告・決算（案）

提出期限：2026年3月26日（木）正午

2. 今後のスケジュール

(1) 「2026年度事業計画・予算（案）」

2026年3月26日 第8回理事会にて審議・決定

2026年6月（予定） 定時総会にて報告

(2) 「2025年度事業報告・決算（案）」

2026年4月（予定） 2026年度第1回理事会にて審議、定時総会に上程

2026年6月（予定） 定時総会にて審議・決定

(添付書類)

- ・添付1) 2025年度 各事業委員会活動の自己評価に対する改善提案
- ・添付2) 2026年度 【記入用】事業計画・予算（案）
- ・添付3) 2025年度 【記入用】事業報告・決算（案）

以上

【2026年度 FD・SD委員会 事業計画・自己評価・事業報告】

○目的 大学コンソーシアムひょうご神戸中長期計画Ⅱ期の柱「3. 県内大学の教育・研究の質を高める多元的学びの提供」の推進に向けて、以下の取組課題について、事業推進を行う。

【取組課題⑥】大学教職員の研修機会の提供と交流の促進
 教職員の資質を向上させることを目的とした研修の機会を継続的に提供する。県下の大学等高等教育機関の関係者に研修交流機会を提供することにより、相互の立場で具体的な施策に結びつく議論が行われる、闊達な意見交換の場を創出する。
 以上の体制の構築並びに、必要な取り組みは本委員会にて実施する。

○委員校 (全：22校)
 ※委員校は2025年度時点
 委員長校：神戸親和大学、副委員長校：芸術文化観光専門職大学
 委員校：芦屋大学、関西国際大学、関西学院大学、関西学院短期大学、甲南大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、神戸薬科大学、園田学園大学、宝塚医療大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫教育大学、兵庫県立大学、流通科学大学

○中長期計画Ⅱ期の取組課題/達成目標/活動指標/予算等

課題及び期待される効果	取組	達成目標	活動指標	予算（千円）
課題⑥ 大学教職員の研修機会の提供と交流の促進 1. 加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開 通年を通して情報共有の仕組みを構築し、大学間で多様な研修プログラムを共有することにより、加盟校教職員の資質向上に寄与することが期待できる。	1. 加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	各年セミナー5件以上	主催大学以外の加盟校参加者数 100人以上/年	60
課題⑥ 大学教職員の研修機会の提供と交流の促進 2. FD・SD情報交換会、セミナー等の開催 大学教育が直面している喫緊の課題に関する情報を共有することにより、高等教育改革推進に関する教職員の意欲を高める効果が期待できる。また、加盟校の担当者間での情報交換を通じて、大学間の人材交流の促進も期待できる。	2. FD・SD情報交換会、セミナー等の開催	加盟校参加者数 各年100名以上	開催数 3回以上/年	440

【2026年度 FD・SD委員会 事業予算】

(単位：円)

予算		各取組 予算			
		取組1	取組2		
		加盟校が実施する FD・SDセミナーの公開	FD・SD情報交換会、 セミナー等の開催		
		予算額	予算額	委員会 予算 予算額	
収入	会費収入	600,000	60,000	440,000	100,000
	助成事業収入	0			
	受託事業収入	0			
	プログラム収入	0			
	雑収入	0			
	戻入金	0			
	計	600,000	60,000	440,000	100,000
支出	会議費	40,000		30,000	10,000
	旅費交通費	70,000		60,000	10,000
	通信運搬費	60,000		30,000	30,000
	消耗品費	19,000		10,000	9,000
	新聞図書費	0			
	印刷製本費	65,000		65,000	
	光熱水料費	0			
	賃借料	30,000		20,000	10,000
	保険料	0			
	謝金	220,000		220,000	
	租税公課	0			
	支払手数料	6,000		5,000	1,000
	諸会費	0			
	委託費	90,000	60,000		30,000
	人件費	0			
	接待交際費	0			
	支払支援金	0			
雑費	0				
計	600,000	60,000	440,000	100,000	

収入－支出	0
-------	---

2025年度事業委員会への改善提案について

※達成目標は中長期計画立案時に、活動指標は各年事業計画立案時にそれぞれ策定

①国際交流委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	・兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業	4	4	加盟校の学生からの複数の持ち込み企画を支援し、学生の自発性やアイデアを表現に注力したことや、International Festival HIH EXPOにおいて、留学生、学生と地域を繋げる場やゼミ活動を実施する場を創出したことは高く評価できる。また就職支援では当コンソ会員企業にも協力を仰ぎ、双方に刺激になる企画を実施したことも意義深い。今後もコンソの他プログラムや地元中高生、企業と連携しながら、国際交流を軸とした、学生の学びをアウトプットする機会の提供し、コンソの特徴を活かした地域の多文化共生を推進することを期待する。	①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上（期間中2回測定） ②参加者数2500名以上/5年	①理解度 100% ②参加者数 6,173名/4年(2025.10.31現在)	参加者数 500名以上/年	参加者数 611名(2025.10.31現在)
事業報告②	〈加盟校の国際交流プログラムとの連携促進〉 ・学生海外派遣プログラム ・事業年度内で加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム	4	3	新たな取組として神戸学院大学と一緒に取り組む「BOSA1コミュニケーションカード」や甲南女子大学GCPプログラムでは、当初の計画に加え、11月実施のInternational Festival HIH EXPOに出展するなど、新たな試みにより充実をはかったことは評価できる。また、ミャンマー震災関連のイベントでは当コンソの取りまとめで複数の加盟校が協力し、学生や一般に向けてそれぞれの持ち味を活かした企画を発信できたことは評価できる。今後も加盟校の国際交流プログラムに多様な人々が参加できるよう、創意工夫することを期待する。	①本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上（期間中2回測定） ②プログラム数 10件以上/5年	①理解度 100% ②プログラム数 16件/4年(2025.10.31現在)	プログラム数 2件/年	プログラム数 5件(2025.10.31現在)

②学生交流委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	〈テーマ型の学生交流プロジェクトの実施〉 ・「WILL BEプロジェクト」キッズフェスティバル	4	4	INAC神戸レオネッサとの連携により、従来の開催方式を刷新したキッズフェスティバルにおいて、学生が主体的に企画・運営に取り組み、多様なブース展開を実現できた点は高く評価できる。ゼロベースから新たなキッズフェスティバルを築き上げる過程で、企業課題解決プログラムをはじめ、コンソーシアムの多様な取り組みとの連携・協働につながるプログラムを見い出したことは大変意義深い。来年度からは、企業課題解決プログラム等、委員会の枠を超えて加盟校に広く柔軟なブース出展を呼びかけることで、多様な学生の参加を促し、大学間交流のさらなる深化を図ることを期待する。	各年参加者数 50名以上	参加者数 500名	参加加盟校数 10校/年	参加加盟校数 14校
事業報告②	〈学生発信ブランディング〉 ・加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報	3	3	全国コンソーシアム研究交流フォーラムにおけるパネル・ポスター展示では、加盟校の取組を広く全国で紹介できたことに加え、来場者との直接的な情報交換を実現し、単なる情報発信に留まらない双方での広報展開を行った点で高く評価できる。一方で、情報発信の主体となる加盟校に偏りが見られることは、今後の課題である。今後は、より多くの加盟校の参加を促すために、情報提供のメリットを明確にし、多様な大学が積極的に情報発信できるよう、コンソHPやNOTE等仕組み化の検討を期待する。	情報公開数 200取組以上/5年	情報公開数 165取組/4年(2025.10.31現在)	各加盟校からの情報提供：年1回以上 情報公開数：40取組以上/年	情報公開数：32取組(2025.10.31現在)
事業報告③	〈学生発信ブランディング〉 ・若者による「震災の教訓を繋ぐプロジェクト」SNS等での情報発信	2	3	学生の関心や実体験を起点にWebメディア記事を制作し、阪神・淡路大震災の被災者や自治体職員等への取材を通じて社会との交流や教育機会を創出したことや、製作した防災動画が大阪・関西万博関連イベントや全国大学コンソーシアムで活用され、広報効果を高めることは評価できる。今年度で終了する当プログラムで認識できた、学生の防災意識・備えや災害時の行動理解、ボランティア活動への意欲を、今後はコンソの国際交流委員会を取り組み中の「BOSA1コミュニケーションカード」作成の活動に活かす等、継続的な活動が望まれる。	参加加盟校数 10校以上/年	参加加盟校数 7校	個人参加 15名以上	個人参加 23名

③教育連携委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	・単位互換事業の実施	4	4	単位互換制度を通じた学びの選択肢は、加盟校学生にとって引き続き有益な取組であるが、制度自体の認知度向上に向け、広報手法や情報提供のタイミング等について、引き続き検討のうえ実施いただきたい。また、オンライン科目やオンデマンド形式への学生ニーズが高まっていることを踏まえ、現状に即した履修環境の整備についても、引き続き委員会にて検討を進めていただきたい。	各年開放科目数 10科目以上	165科目	参加学生数 30名、 (送り出し校数5校以上)/年	62名(13校) ※対面：46名、オンデマンド：16名
事業報告②	・多様な学修機会の提供	4	4	加盟校間の公開講座の開放により、教育資源の共有と相互連携が進み、学修機会の提供体制は着実に構築されている。今後は、教育・研究面での交流促進や知の循環をさらに強化し、教育の質向上と学修成果の最大化につながる枠組みについて検討を進め、実施いただきたい。また、「大学×ラーニング協議会基盤システム」等のICTを活用した学習支援についても、加盟校間での活用事例共有や周知を継続し、教育支援基盤の整備と質向上に期待したい。また、実態に即した活動指標についても、あわせてご検討いただきたい。	各年プログラム数 5件以上	7件 (2025.10.31現在)	参加者数 50名以上/年	参加者数 2,392名(2025.10.31現在)

④キャリア委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	・「兵庫県」 大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト	3	3	大学や企業が共通課題としている『グレーゾーン学生』の支援方法を学ぶ機会を提供し、産官連携で取組む機運を醸成したことや、「就活向けグループディスカッション&グループ面接体験セミナー」における地方公務員コース新設するなど、多様化する学生・企業のニーズに柔軟に対応したことは高く評価する。一方で、学生の確保が困難という課題が顕在化し、キャリアイベントにおける企画内容の検討、SNS等を活用した広報戦略の見直しにより、多様な学生が参加しやすい取り組みへと改善する必要がある。今後も早期化、多様化する学生のキャリア志向に対して、産官学がより内容の濃い情報交換しながら、学生のキャリア支援に取り組まれることを期待する。				参加者数218名 (学生125名、教職員93名) (2025.11.30現在)
事業報告②	・県内企業への就職率向上促進プログラム	3	3	今年度新たに共催した、12月開催の「ひょうごJOBフェア2025」では、4年生や既卒生が参加者の大半を占めており、これらの層の就職支援等、多様な就職を支援する必要性が新たに認識できたことは評価できる。引き続き、就職活動の早期化・多様化に伴い学生が分散している現状に対し、連携先増加やチャネル拡大に意識して取り組み、多くの学生と企業が出会う場を創出し、県内定着へと繋げるための取り組みを創意工夫しながら実施することを期待する。	①本プログラムへの参加を通じて、兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上 ②参加者数：2500名以上/5年	①理解度 96% ②学生1,434名・教職員499名/4年(取組1-1,2,3合算) (2025.11.30現在)	各年参加者数 450名以上 [内訳] 学生数 400名以上 教職員数 50名以上	参加者数95名(2025.11.30現在)
事業報告③	・「尼崎市」 大学生等向けオープンカンパニー（インターンシップ等推進事業）	3	2	本取り組みは、地元志向の強い学生や、選考を伴い且つ拘束期間の長いインターンシップ等への参加が困難な課外活動や研究活動を行っている学生に対し、気軽に企業と深い交流ができ、合理的な就職活動の機会を提供した点は評価できる。また、企業からも、学生の志向を理解し、自社の魅力をより丁寧に伝える機会としての評価は高かった。一方で、地域や業種が限定的であることから、コンソの枠組みでは参加学生の確保が困難という課題が明らかになった。今後は、このように多様かつ限定的な学生や自治体のニーズに注視しつつ、別の形で応えていくことを検討・推進することを期待する。				参加者数22名 (学生22名、教職員0名)
事業報告④	・県内企業・団体等の魅力を情報発信	4	4	ワーク・ライフ・バランスや待遇の向上が重視される現在の状況において、子育てサポート企業やユースエール認定企業などの客観的な指標や情報を一元化して明確に示すことは、現在の学生が重視する企業の待遇や環境を比較検討する手助けとなり、キャリア支援担当者による指導の一助としても極めて有用であると評価する。これにより、学生の企業研究の質を向上させ、適切なマッチングを促進する意義深い取り組みである。今後は、掲載されている優良企業や制度の情報を、より多くの学生層(例：低学年層)に対して、どのように効果的に周知徹底し、利用を促していくかという戦略的な展開を期待する。	情報公開企業・団体数：120社以上	153社	企業情報の追加掲載 2種類以上	追加情報掲載2種類 (12月中に掲載予定)
事業報告⑤	・ひょうご留学生インターンシップ	4	4	留学生83名が参加の「ひょうご留学生インターンシップ」や、日本人学生と外国人留学生が参加した「国際交流機関リレーインターンシップ」により、多国籍環境下での就業体験を提供した点は評価できる。一方で、県内での留学生の就職者数が増加する中、早期離職が課題となっている。留学生が自身のアイデンティティを活かした就職・定着を目指すこと、また、外国人の職場定着に貢献できる日本人学生を育成することも視野に入れた事業展開を期待したい。				575名
事業報告⑥	・「尼崎市」 留学生向けインターンシップ（インターンシップ等推進事業）	4	4	ひょうご留学生インターンシップの枠組みを活用し、行政のみでは実施が困難な尼崎市内企業に留学生をアレンジ、同市内企業における留学生採用への機運を高めた点は評価できる。同時に、尼崎市にコンソの17年間継続のノウハウとその継続性や実績を印象づけ、コンソとの連携の価値を示すことができた点も意義深い。今後は、他の自治体との連携においても活用できるよう、創意工夫を重ねながら実施していくことを期待する。	①本プログラムへの参加を通じて、日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の70%以上 ②参加留学生数：2500名以上/5年	①理解度 100% ②355名/4年	各年参加留学生数 500名以上	575名(事業報告⑤に含む)
事業報告⑦	・「兵庫県」 外国人留学生採用ワンストップ支援事業	4	4	同窓口開設から3年目を迎え、キャリアセンターと連携しながら、留学生インターンシップ参加学生への継続的な支援をはじめ、多様な留学生の就職支援を実施し、県内就職を希望する留学生を取りこぼすことなく対応してきた点は評価できる。また、コンソとして、兵庫県をはじめ、留学生就職に関わる関係機関（商工会議所、大阪出入国在留管理局神戸支局、労働局、JICA関西、JETRO神戸、兵庫国際交流協会、県行政書士会、日本語学校等）との連携や、国際交流委員会事業との協働が進化したことは意義深い。今後は、これら関係機関との連携をさらに強化し、本事業にとどまらず、他の事業領域にも効果が波及するような取り組みの推進を期待する。	①本プログラムへの参加を通じて、日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の70%以上 ②参加留学生数：250名以上/5年	①理解度 97% ②355名/4年 (2025.11.30現在)	各年参加留学生数 50名以上	92名(2025.11.30現在)

⑤ 高大連携委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	(大学と高等学校の意見交換会の実施) ・「ひょうご高等学校大学コンソーシアム」	3	4	兵庫県下の大学と高等学校との連携・接続に関する課題を共有し、これらについて継続的に意見交換が行われている点は評価できる。引き続き、県内における高大連携を一層深め、人材育成の取組促進や人的ネットワークの構築につながる活動を積極的に推進してほしい。	各年参加校数 20校以上	参加校数 22校	意見交換会等の実施 年1回以上	意見交換会等の実施 2回
事業報告②	・加盟校の魅力情報を発信	3	4	コンソHPにおける情報発信や兵庫県下の高等学校への情報共有など、高大連携に関する情報を提供している点については評価できる。今後も継続して、高等学校の教職員・高校生・保護者に向けて加盟校の情報を効果的に発信していただきたい。	各年情報提供先数 高等学校等200か所以上	情報提供先 184か所 (兵庫県学校協会及び兵庫県総務部教育課私立教育班を通じて) ※年度内に200か所達成予定	大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページへの情報掲載 アンケート等の実施/年1回以上	ホームページへの情報掲載 1回

⑥ FD・SD委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	・加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開	4	4	加盟校が実施するFD・SDセミナーについて、情報共有の仕組みを構築し、加盟校へ適切に周知することで、多くの教職員の資質向上に寄与している点は高く評価できる。現時点で、活動指標・達成目標を達成していることから、その効果が確認できる。引き続き、加盟校のニーズを丁寧に把握し、それらを反映したFD・SDの取組を継続的に進めることで、より効果的な事業展開となることを期待したい。また、実態に即した活動指標についても、検討いただきたい。	各年セミナー5件以上	公開セミナー 7件(8校) (2025.10.31現在)	参加者数100人以上/年	参加者数 728名/年 (2025.10.31現在)
事業報告②	・FD・SD情報交換会、セミナー等の開催	4	4	大学運営上の課題について、加盟校間でFD・SDの共通化を図り、教職員研修業務の効率化を目的としたセミナーを企画・実施している点は評価できる。引き続き、計画に沿って着実にセミナーを開催し、安定的な研修機会を提供するとともに、加盟校教職員間の交流促進にもつながる取組を期待したい。	各年参加者数 50名以上	参加者数 41名 (2025.10.31現在)	開催数3回以上/年	開催数 1回 (2025.10.31現在)

⑦ 企画運営委員会

	プログラム名	対到達目標	対継続性	改善提案	達成目標	達成目標に対する実績	活動指標	活動指標に対する実績
事業報告①	・リカレント教育の普及促進に向けた取組 ・加盟校のリカレント教育に関する情報発信	4	4	リカレントフォーラムにおいて、企業・大学・行政の多様な立場から意見交換を行い、課題解消の可能性を見いだせた点は高く評価できる。また、兵庫県からも県内大学におけるリカレント教育推進への寄与が期待されていることを踏まえ、今後もさまざまなステークホルダーと加盟校が連携し、リカレント教育の一層の普及に努めていただきたい。	・各年参加者数 50名以上 ・各年10校以上	・参加者数 52名 ・掲載数 26校	大学・企業関係者による講演・意見交換会 (年1回以上)	・開催数 1回 (2025.8.30開催)
事業報告②	・「兵庫県」 大学生等インターンシップ推進事業～テーマ型企業理解プログラム～	4	4	兵庫県内企業や大学の特性を生かした複数のプログラムを展開し、学生の地域企業・業界への理解を深め、キャリア意識の向上に貢献できた点は評価できる。今後も、加盟校と賛助会員をはじめとする企業との連携を一層拡充させる取組として発展させていただきたい。	・大学間連携の特徴を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の拡充 ・参加者数 50名以上/年	参加者数 54名 (2025.10.31現在)	大学・企業関係者による講演・意見交換会 (年1回以上)	大学・企業関係者による意見交換会：1回以上
事業報告③	・第22回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム	4	4	「全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム」において、自治体や地域企業、学生を含む多様な主体と連携しながら企画・運営を遂行した点は高く評価できる。シンポジウムや交流企画では活発な議論と意見交換が行われ、地域連携および大学間協働の可能性を広げる有意義な場となったことが認められる。本取組で得られた知見やネットワークを、今後の事業展開に的確に生かしていくことを期待する。	・大学間連携の特徴を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の拡充 ・参加者数 50名以上/年	参加者数 461名	大学・企業関係者による講演・意見交換会 (年1回以上)	大学・企業関係者による意見交換会：1回以上
事業報告④	・賛助会員と加盟校の懇親会、企業課題解決プログラム、リスクマネジメント等	4	4	各種委員会やフォーラム等の機会を通じて、加盟校・自治体・産業界との連携を着実に深めている。企業課題解決プログラムにおいても、参画校や企業の広がりを取りつつ、実践的な学びの場の創出に取り組んだことは意義深い。今後も、これらの取組を発展的に活用し、より質の高い連携活動へとつなげていくことを期待したい。また、緊急時におけるリスクマネジメントについても、実効性の高い体制の構築について検討いただきたい。	・緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築 ・参加校・団体数 10校・団体以上/年	参加校・団体数 37校・団体	大学・企業関係者による講演・意見交換会 (年1回以上)	大学・企業関係者による意見交換会：1回以上
事業報告⑤	・加盟校が活性化する事業運営体制の整備と推進	4	4	情報発信の強化や委員会での活発な意見交換を通じて、加盟校が活性化する事業運営体制の整備・推進に着実に寄与した点は評価できる。また、学生アンケート結果を踏まえた広報施策の改善も適切と考える。今後も効果的な周知を進め、運営体制のさらなる充実につなげていくことを期待する。	・加盟校の共通課題に協働して取り組む事業運営体制の構築 ・アンケートの実施 1回以上/年	アンケートの実施：年1回実施	企画運営委員会等における懇談の実施 (年10回以上)	企画運営委員会等における懇談の実施：年7回実施 (10月31日現在)

<自己評価基準>

対到達目標：4：当初計画を上回って達成 3：当初計画を達成 2：当初計画をやや下回った 1：当初計画を下回った

対継続性：4：本プログラムは継続すべき 3：本プログラムは継続しても良い 2：本プログラムの継続には改善が必要 1：本プログラムは中止すべき